

インターバンクの声（2017 年 7 月 6 日）

東京市場の昼前に付けたドルの安値 112 円 83 銭からロンドン市場の午前中にかけて、ほぼ一直線に 113 円台中盤までドル買い・円売りが進んだ円相場だったが、この水準からの上値を抜いて行くのは簡単ではなかった。北朝鮮のミサイル発射によって生じたリスク回避の円買いを巻き戻す動きもひと段落し、米金利の上昇も止まっていたこともあって、原油価格が下落し始めたことが、円を買い戻すには良いきっかけとなった。

さらに 5 月の米製造業受注が予想を下回る結果だったことも影響した。さすがに 6 月のFOMC議事要旨の発表が控えていたことから 112 円台まで深追いすることはなかったが、ポジションが溜まった後にドルの下げ足が速くなるのはドル円によくある動き方だ。

注目された議事要旨は、バランスシートの縮小開始時期については意見が分かれたが、縮小が開始されることは確実にになったとして一時的にドル買いとはなったが決定打とはなっていない。先週初に比べれば 2 円以上ドルが上昇したこともあり、もう少しドル売り調整をして雇用統計を待つことになるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。